



学力向上プラン

目指す生徒像

- ◇場面に応じた表現や振る舞いをする
- ◇感情をコントロールする
- ◇情報を取捨選択し、有効に活用する
- ◇他者の立場で物事を考える
- ◇地域に関心を持つ

学校教育目標

「^{あす}未来を切り拓く力を持った生徒の育成」

- 自律 自ら考え、判断し、行動する力の育成
- 尊重 自他を尊重する態度の育成
- 創造 豊かな発想を持ち、工夫する力の育成

令和2年度の「学力向上プラン」を以下のとおり定め、本校における全ての教育活動を通じて、全職員が一丸となって全校生徒の学力向上に取り組みます。

「学力」に係る本校の課題（※前年度の全国学力・学習状況調査及び町学習到達度調査の結果や日常的な生徒の学習実態を踏まえて）

【国語】正答率は、全国平均と同程度である。言語についての知識・理解・技能面もおおむね良好ではあるが、根拠を明確にして、自分の考えを持つ力に課題がある。
 ⇒設問の意味をしっかりと確認し、ポイントとなる語句を見つけ、設問に適した回答を導き出す「読解スキル」を身につけるための課題を、積極的に取り入れる。
 更に自分の考えを表現する力をつけるために、短い作文に取り組ませる。

【数学】正答率は、全国平均と同程度である。「数学的な見方や考え方」に関しては、全体の比較の中では平均的であるが、「関数」、「資料の活用」の力は全国平均も低く、本校の結果もそれと同程度である。本校は「数学的な技能」の面で課題がある。特に「確率の求め方」や「反比例の表から式で表す」といった基本的な技能における弱さが目立つ。
 ⇒基礎的な代数的分野と異なり、「関数」や「資料の活用」を扱う授業時間数が少ない単元であるため、課題が目立つ。繰り返し取り組ませることで定着が図れる分野に関しては、毎授業内で、短時間、習慣的に取り組ませることを目指す。

【英語】正答率は、全国平均と同程度である。特に、簡単な一問一答式の英会話を理解して、情報を正確に聞き取る力の弱さが目立つ。また、まとまった説明文の大切な部分を理解することは、全国平均も低いが、本校にとってはさらに課題である。
 ⇒毎授業の最初に1分程度、3年間で習う文法事項を盛り込んだ、簡単な英会話練習を取り入れる。これを通して「聞くこと」、「話すこと」に慣れ、「コミュニケーションを図る」資質・能力を育成する。

【質問紙調査より】◆塾も含めて家庭学習の時間が、3時間以上の生徒と1時間未満の生徒と2極化している。◆4割の生徒が1日の読書時間が10分以内である。新聞もほとんど読まない。◆4分の1の生徒が就寝時刻が不規則である。◆総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するという学習活動に取り組むことが出来たと考えている生徒は半数程度である。◆1・2年の授業において、自分の考えを発表する機会に、「自分の考えが上手く伝わるように、資料や文章、話の組み立て等を工夫して発表する」ことが出来なかったと感じている生徒が半数以上いる。

知識・技能などの基礎・基本の確実な定着

- ① 授業において「本時の流れ」と「本時の目標」を提示し、視覚的にわかりやすい教材や板書の工夫に力を注ぐことで、授業のユニバーサルデザイン化を更に推進する。
- ② 毎授業における「振り返り」の時間を確保することで、要点の定着を図る。
- ③ 生徒のニーズも高く、学習意欲を高めるためにも、ICT機器を活用し、わかりやすい授業の工夫をする。
- ④ 集中しやすい教室環境を整えた上で、学習規律を伝え、どの生徒にとっても落ち着いて参加できる授業を目指す。
- ⑤ 個々のつまづきを早期発見するための方策を行い、その結果を授業の進め方にフィードバックしていく。
- ⑥ 新学習システムによる同室複数指導や少人数（ハーフサイズ）授業を最大限に活用し、きめ細かい学習指導に力を入れる。
- ⑦ サポートの必要な生徒に放課後学習の場としての「猪名中道場」の充実を図る。

「言語活動」の充実

- ② 朝読書を実施し、活字に親しむことを習慣化させる。
- ③ 図書室の整備を推進し、貸し出しを増やすことによって読書活動を活性化させる。
- ④ 生徒の「主体的・対話的な学び」を深めるために、授業の中で小グループでの話し合いの時間を取り入れていく。
- ⑤ 学活の時間を中心に、年度初めはエンカウンタープログラムにより、生徒同士に交流することの楽しさを体感させ、年度末には、修了宣言の発表を行うことで、自他の成長を認め合う場とする。
- ⑥ 行事ごとの振り返りで、自らの体験をことばで表現する取り組みを推進する。
- ⑦ 道徳や総合の時間を中心に、テーマに沿ったディベートを行うなどそれぞれの立場に合った意見の組み立て方を学ぶことを進める。
- ⑧ 学校生活のあらゆる場面で、望ましい会話や言葉遣いについて指導する。
- ⑨ 教員がコミュニケーションスキルについての研修を深め、言語による伝えあいによって生徒間の相互理解の深化をはかる。

思考力・判断力・表現力、活用する力の育成

- ① 情報を整理した上で、根拠を示して、自分の意見を組み立てる方法を教えていく。
- ② プレゼンソフトやプレゼンのためのテンプレートを活用して、生徒によりわかりやすく伝える力をつけさせる。
- ③ 友達の発表を観点ごとに客観的に評価し、その良いところを自分の学習に活かす力を育てる。

「家庭学習」の充実

- ① 保護者と連携し、起床・就寝時刻を含めた規則正しい生活リズムの確立を図る。
- ② 携帯電話（スマホ）やゲーム機器等の使用について、情報リテラシーの意識の浸透を図り、家庭内での約束ごとの大切さを保護者にも伝える。
- ③ テレビやゲームなどに費やす時間を決める。
- ④ 新聞やニュースに目を通すことや、家庭での話題にも取り上げることで、政治や社会の問題について関心を持てるようにする。
- ⑤ 「1人1台タブレット導入」を視野に入れて、オンライン学習の整備と導入を図る。
- ⑥ 学校生活や友人について、また今子供が興味を持っている分野について等、家庭で出来る限り時間を取って、話し合うことの必要性を呼びかける。